

き、意味ある存在として生きていく希望や気持ちをはぐくむことに繋がると考える。

15. 薬学実務実習における緩和ケア実習の有用性

富吉 由貴, 平尾 和明, 本田 滋

飯塚 恵子, 中村 智徳, 山本康次郎

(群馬大医・附属病院・薬剤部)

【目的】 近年、病院における緩和ケアチームや地域における在宅緩和医療での薬剤師の役割は増大しており、薬学的知識に加え、WHO の緩和ケアの定義 (2002 年) について理解した上で緩和医療に携わっていく必要がある。そこで今回、6 年制薬学教育初年度の長期実務実習で緩和ケアに関する実習を行い、その有用性を評価した。

【方法】 2010 年 9 月 6 日から当院で実習を行った薬学生 14 名を対象に、緩和ケアに関する知識について実習前後でアンケート調査を行った。実習は講義 3 時間 (緩和ケアの定義、疼痛及びその他の症状緩和の薬物療法)、症例検討 1 時間 (鎮痛薬の選択及び投与経路変更)、ロールプレイ 30 分 (オピオイド開始時の服薬指導、患者の不安の訴えに対する傾聴及び共感)、カンファレンス参加 1 時間 30 分の内容で行った。アンケートは各設問に自由回答形式とした。

【結果】 WHO の 3 段階除痛ラダーの理解度は実習前 7.1%、実習後 92.9%であった。鎮痛薬使用の 5 原則は実習前は平均 0.7 (±1.33) 個、実習後は平均 4.3 (±1.82) 個理解していた。「緩和ケアとは？」という設問に対し、疼痛緩和のみを挙げた学生は実習前 71.4%、実習後 7.1%であった。一例として「痛みをとる」から「苦痛の軽減」に回答が変化した。また、「緩和ケアの対象」について末期がん患者や予後不良の患者のみとした学生は実習前 78.5%、実習後 14.3%であった。ケアの対象に家族も含めた学生は実習前 0%、実習後 50%であった。一例として「末期のがん患者」→「苦痛を軽減する必要のある患者さんとその家族」と回答が変化していた。

【考察】 緩和ケアの実習を行うことで、鎮痛薬の使用方法や緩和ケアの概念について理解できた学生が増加したことから、長期実務実習における緩和ケアの実習は有用であると考えられる。今後はさらに多くの学生が理解を深められるように講義内容、症例選択などを検討していきたい。

16. 出血を伴った口腔粘膜障害に対するポラプレジック含嗽水アイスブロックの有用性

増野 貴司, 堀口 裕之, 小幡 輝夫

堤 教明, 田村 昌行

(公立藤岡総合病院 薬剤部)

【はじめに】 ポラプレジック含嗽水 (以下 P-AG 含嗽水) はフリーラジカル除去作用、粘膜保護作用、組織修復作用を併せ持つポラプレジックを、アルギン酸ナトリウム液の特性である高い粘稠性により、長時間にわたって口腔粘膜に接触させ、口内炎に対して有効性を発揮できるものと考えられている。しかし、出血を伴う重症口内炎では、P-AG 含嗽水の独特の味と粘性のため使用困難となる場合が多い。この状況を是正するため、今回我々は出血を伴う口腔粘膜障害を生じた 2 症例に対して、P-AG 含嗽水をアイスブロックにして使用したところ有効であったので報告する。

【症例 1】 50 歳、男性、悪性リンパ腫。LEED 療法施行後、自己末梢血幹細胞移植を施行。口内炎予防として P-AG 含嗽水を開始したが、好中球減少に伴い発症した口内炎は重篤化し、出血を伴った。疼痛緩和のため、塩酸モルヒネ注、スペシャル含嗽水 (含嗽用ハチアズレ+4%キシロカイン液) を開始した。P-AG 含嗽水は使用困難であったが、アイスブロックとすることで継続できた。口腔内疼痛は緩和され、口内炎はその後徐々に改善した。

【症例 2】 44 歳、女性、急性骨髄性白血病。寛解導入療法として DNR/Ara-C を施行。入院前より歯周炎があり、口腔内痛が強く出血もきたしていた。ジクロフェナクナトリウムを内服開始するも無効。フェンタニルパッチを開始。口腔内痛は軽度改善するに留まったので P-AG 含嗽水アイスブロックを開始したところ、口腔内痛は大幅に改善され、出血もなくなった。

【考察】 本症例では、P-AG 含嗽水をアイスブロックにして使用したところ良好な使用感を得られ、出血症状の緩和に役立った。口腔内を定期的に冷却することにより、血管を収縮させることで出血を抑制したのと考えられる。また液状では、使用するたびに振とうしないとポラプレジックが均等にならないが、アイスブロックにすることで常に適正な状態で使用することが可能になった。

17. 当院のフェンタニル貼付剤に関する実態調査

奥澤 直美, 小林 剛, 細川 舞

眞中 章弘 (独立行政法人国立病院機構

西群馬病院 疼痛緩和チーム)

【目的】 フェントス®テープ (以下テープ)、デュロテップ®MT パッチ (以下パッチ) を使用した病棟から、貼付に関するヒヤリハット体験報告があった。そこで、